

共同研究
「ニュータウンのある『まち』」
—地域における大学の役割に関する実践的研究—
活動報告

杉本 星子・小林 大祐

本共同研究プロジェクトは、同研究所で2003年度から2005年度にかけて行った共同研究「ニュータウンの未来像」における成果を基盤に、本学に隣接するグリーンタウン横島、向島ニュータウンを中心とした近隣地域を研究対象にした実践的研究を目指している。先の共同研究や個々の研究員が地域との関わりを通して築いてきた住民との交流を発展させ、住民とともに地域の諸課題に実践的に取り組むことで、ニュータウンという住空間を外に開き、大学もまた地域に積極的にコミットして外部に開いていけるような「ニュータウンのある『まち』」としての可能性を模索していく。

初年度はコミュニティにおける大学の役割と実践的研究方法の検討を行うべく、以下のような取り組みを行った。また本号には杉本星子による論文「ニュータウンのトポグラフィー—向島ニュータウンと巨椋池の記憶をめぐる考察—」を掲載している。次年度では地域住民との連携を含めた公開シンポジウムやワークショップ等を実施し、研究会を進めていきたい。

●第1回 研究会

吹田市立博物館「千里ニュータウン展：ひと・まち・くらし」見学会

「ニュータウン・大規模団地の地域住環境運営における中間集団の役割と可能性」（科研共同研究・代表者篠原聡子（日本女子大学））との共催

日時：2006年5月20日（土）

場所：吹田市立博物館

吹田市立博物館学芸員 藤井裕之氏、特別館企画委員 鈴木毅氏（大阪大学）の案内で展示見学

午後、千里ニュータウンの「街角広場」を訪問。

●第2回 研究会（会議）

日時：2006年7月25日（火）15：00～16：30

場所：京都文教大学 普照館 F232

●第3回 研究会（会議）

日時：2007年3月1日（木）15：00～

場所：京都文教大学人間学研究所所長室